

Stage7

Where's Woody?

ウッディはどこだ？

作・ジャン・バーチェット、サラ・フォーグラ―

絵・ジョン・スチュアート

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話すのはいい考えですね。

- ・表紙と裏表紙を見ましょう。この本にどんなことが書かれているかヒントがみつかります。
 - ・3 ページを読んでください。ナナフシがどんなものかお子さんにわかるでしょう。
 - ・2 ページを見て、この話にでてくるひとたちを確認しましょう。
 - ・このお話でどんなことが起こると思うか、お子さんに話してもらいましょう。
- 自分のスピードでこの話を読めばいいよと、お子さんにいってあげましょう。

<ひっかかることば>

ここにあげるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

insect 昆虫

camouflage 擬態

twig 小枝

happened 起こった

escape 逃げる

privet セイヨウイボタ

leaves 葉

favourite 大好きなもの

[p. 1]

ウッディはどこだ？

作・ジャン・バーチェット、サラ・ヴォグラ―

絵・ジョン・スチュアート

[p. 2]

お話にでてくるひと……

マックス

タイガー

アント

キャット

ジョーンズ先生

ミルズ校長

[p. 3]

これもお話にでてくるよ……

ウッディ(ナナフシ)

ナナフシは小枝や木切れにそっくりです。

ナナフシは隠れるのがとても上手です。これを「偽装」と言います。

[p. 4]

遊び時間のことでした。マックスとキャット、アント、タイガーは、教室にいました。みんなでウッディを探していました。

「ウッディはどこ？」マックスがたずねました。

「見つからないわ」キャットが言いました。

[p. 5]

「当然キャットには見つからないさ！」タイガーが言いました。「ウッディはすがたを隠しているんだもん」

「いたよ」アントが言いました。アントは飼育箱のなかのなにかを指さしました。

ほかの3人は目をこらしました。枝でしょうか？ ナナフシのウッディでしょうか？

<ウッディが見える？>

[p. 6]

アントは飼育箱に手を入れて、ウッディをつまみあげました。「ほらこれだよ」アントが言いました。

「カッコイイ！」タイガーが言いました。「ぼくもこんなふうには隠れられたらいいのになあ」

[p. 7]

ほかの3人がタイガーを止める間もなく、タイガーは時計のダイヤルを回して……

「ああっ！」

<シュー！>

<カラッ！>

[p. 8]

タイガーは小さくなりませんでした。その代わりにウッディが大きくなりはじめ……

[p. 9]

どんどん大きく…… 大きくなりました！

[p. 10]

「うわあ」キャットが言いました。「ウッディがほうきの柄みたいな虫になっちゃった！」

「タイガー、時計になにかがあったの？」マックスがたずねました。

「わかんないよ」タイガーが言いました。「ただピカッと光ってシューって音が出て……」

[p. 11]

「マックス！」アントが大きな声で言いました。「ウッディを元の大きさに戻さなきゃ。だれかにウッディを見られちゃうよ！」

ちょうどそのときドアが開きました。

[p. 12]

「ここでなにをしているの？」ジョーンズ先生がたずねました。

「ウッディをさがしているんです」マックスが答えました。

「ウッディはすがたを隠しているんです」タイガーが言いました。

[p. 13]

「そう、飼育箱にふたをしなさい」ジョーンズ先生は言いました。「逃がしたらいけないから」

[p. 14]

ジョーンズ先生は本を何冊か手に取るといってしまいました。

「ふう！ 危ないところだったわ」キャットが言いました。

「ウッディはどこだ？」アントが言いました。

「ウッディはどこだ？」

[p. 15]

「しまった！ 窓が開いてる」マックスが大きな声で言いました。「ウッディは出て行っちゃったにちがいない！」

「だれかにウッディを見られちゃうぞ！」タイガーがさげびました。子どもたちは外に飛び出しました。

[p. 16]

マックスとキャット、アント、タイガーは、外でウッディをさがしました。

「ウッディが見つからないよ」タイガーが息を切らして言いました。

「どこにいるのかしら？」キャットが言いました。

[p. 17]

「巨大なナナフシはどこにいくだろう？」マックスがたずねました。

「たぶん上のほうの……」アントが言いました。

「木だ！」タイガーがさげびました。「見て、あそこだよ！」

「どうやってウッディを降ろそう？」キャットが言いました。

[p. 18]

「アントはナナフシのことならなんでも知ってるよね」マックスが言いました。「ぼくたちはどうしたらいいと思う？」

「イボタノキの葉っぱを取ってくるよ」、アントは言いました。「イボタノキの葉っぱはナナフシの大好物なんだ」

[p. 19]

遊びの時間が終わりました。ほかの子どもたちはみんな校舎のなかに入りました。

マックスとキャット、アント、タイガーは、木のうしろに隠れました。4人はウッディに向かってイボタノキの葉っぱを振りました。

[p. 20]

「よし」マックスが言いました。「ぼくたちのなかのだれかがウッディをつかんで小さくなるんだ。そうすればウッディも小さくなる」

「タイガーはだめよ」キャットが言いました。「ウッディが学校と同じくらい大きくなっちゃうかもしれないもの！」

[p. 21]

そのとき、マックスはなにかが葉っぱをぐいと引っばるのを感じました。

マックスがウッディをつかみました。マックスが時計のダイヤルを回して……

[p. 22]

アントがウッディを受け取って、マックスは元の大きさに戻りました。

「ここでなにをしてるの？」声がしました。ミルズ先生でした。

「ごめんなさい、ミルズ先生」アントが言いました。「ウッディが逃げたんです」

[p. 23]

アントはウッディをマックスに返しました。それからアントは自分の教室に向かいました。

マックスとキャットとタイガーも自分たちの教室に行きました。マックスは飼育箱のところに行きました。そして両手を開きました。

[p. 24]

「あれ、まずい！」マックスが言いました。「ウッディはどこだ？」

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

- ・ウッディはどのようにして大きくなりはじめたんだろう。
- ・時計についてどんなことがわかった？
- ・子どもたちはどうやってウッディを元の大きさにもどしたんだろう。
- ・お話の最後で、ウッディはどこにいるかな？

この話をまた読んでみようとお子さんにすすめてください。読む自信をそだて、つかえずに読めるようになります。

<ほかにすること>

この本のことをくりかえし話題にしましょう。お子さんに想像力をはたらかせるようにすすめてください！ もしお子さんが巨大なナナフシを見たら、どうするでしょうね？

お子さんがやりたいと思うなら、大きくなったり逃げだしたりする動物について作文したり、絵を描いたりするとよいでしょう。